

今年も秋の

色鮮やかな秋の季節になりました！今年は、夏の高温やナラ枯れの被害の影響が見られ、以前ほどの美しい「秋の森」とはなりませんが、モノトーンな季節に比べればやはり格別です。冬が近づく中、まだまだ山や自然観察を気軽に楽しめる時期ではありますので、その自然の素晴らしさをお見逃しなく！



パブロレンジャーの「鳥類情報局」

猛暑の影響が目立ち、自然のバランスが乱れた今年は、野鳥の種類によって増減が見られました。例年の繁殖期に比べればオオルリやツツドリは若干少なく、アカショウビンやカッコウは全く確認できませんでした。一方、定番となってきたリュウキュウサンショウクイ、コサメビタキやキビタキは増加傾向で、格差が感じられました。

その中、今年は市内で新たに記録した種類もありました。特に印象に残ったのは、イスカとヤイロチョウの初確認でした。残念ながら、シャッターチャンスはなかったため、皆さんに写真を紹介することはできません🙄。昨冬は、イスカの「当たり年」とされたほど日本に飛来した個体数は多かったようです。あきる野で見られるチャンスだと思って過ごしていたら、実際に春先の山地で赤（オス）と黄緑（メス）のイスカの小さな群れを目撃しました。ヤイロチョウは、都内の他の市区町村でも確認されてきているほど、近年は飛来に関する情報が増加しているようです。

数少ない南方系の貴重な鳥類で、温暖化は分布拡大に繋がっている可能性があります。

また、市内で見る機会が少ない鳥類として、これまでに情報は寄せられていましたが、まだレンジャーは確認していなかった国内で最も数が少ない猛禽類の一つであるチュウヒ（推定約135つがい）を市内で初見！（写真）。そして、繁殖期にオオアカゲラも初めて確認しました。ほかにも、市内で確認する年が少ないコルリ、エゾムシクイ、ジュウイチやホオアカを記録することができて、意外と飛来する種類が多い年です。更に、今年中、話題となる冬鳥の登場が期待できそうです！



冬の秋川上空にチュウヒの幼鳥

昆虫シーズンの終わりに

他の生き物に比べ、一部の昆虫類の減少が感じられた年です。植物との関係が深い昆虫類はやはり、異常気象に大きく左右されてしまうでしょう。これまで、カミキリムシやクワガタなどの甲虫と蝶をよく観察してきましたが、やはり今年はお会いが少なかった印象です。特に蝶に関しては、夏型のシジミチョウやセセリチョウ、秋型のタテハチョウの複数種は明らかに減少し、今後も減少が懸念されます。異常気象だけではなく、近年のナラ枯れや、ニホンジカ、ニホンカモシカやイノシシなどの大型哺乳類の増加により、植物への採食圧が昆虫類まで影響を与えています。

右写真のメスグロヒョウモン(メス)は、「ヒョウモンチョウ」らしいオレンジ色ではない蝶だからこそ印象的です。かつては、秋に普通に見られましたが、近年はごくまれになっています。ほかにも、過去には見られましたが、今年確認できなかった蝶は、ウラゴマダラシジミ、ウラミスジシジミ、メスアカミドリシジミ、エゾミドリシジミ、オオウラギンスジヒョウモン、ジャノメチョウ、ミヤマチャバネセセリ、ホソバセセリ、ギンイチモンジセセリです。

さまざまな蝶の少ない年はいよいよ終わろうとしています、来年の動向はどうなるのでしょうか。

かつて秋の「市の常連さん」だったメスグロヒョウモン

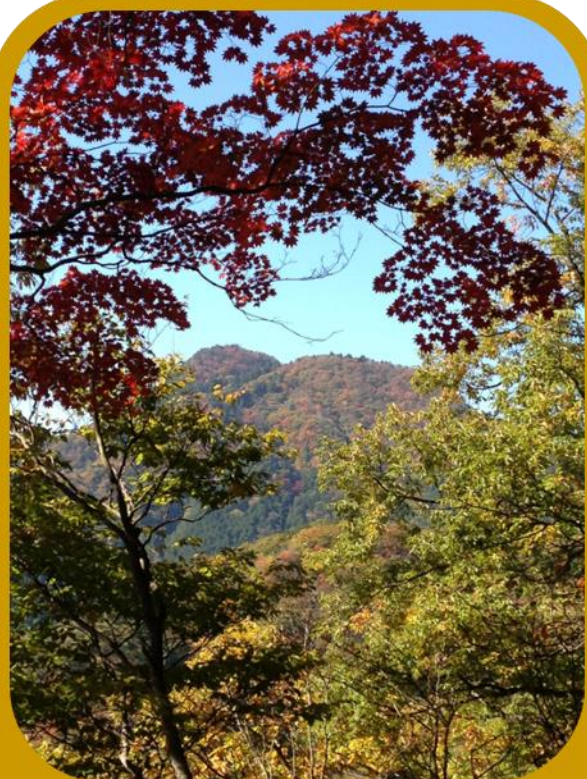


紅葉ではないが、紅葉っぽい・・・

表に書いてあるように、近年に急拡大したナラ枯れ(カシノナガキクイムシが媒介する菌によるブナ科の一部の樹木の感染症)はまだ終息していません。このため、山には多くの立ち枯れ木が発生し、それに伴い、落枝が発生する頻度が高くなっています。また、ナラ枯れは危険であるだけでなく、葉が枯れた木は茶色くなって、遠くから見れば「紅葉」に見えてしまうこともあります。残念ながら、紅葉ではありませんし、逆に色鮮やかな紅葉が見られる山林はこの影響で限られてきている場所もあります。

今年は、ナラ枯れや高温などの影響が比較的に少ない山の谷では、特にモミジ類が多く見られる森の紅葉が最も美しく感じられたのではないのでしょうか。

いよいよあきる野の山は冬に染まる頃になります！



↑ 通常の紅葉の様子(2014年10月下旬)

← ナラ枯れの影響を受けた森の様子
(今年10月中旬)

